

本部長の越後散策記（山本元帥法要）



去る4月18日、越後長岡にて第77回山本元帥法要に参加しました。言わずと知れた聯合艦隊司令長官山本五十六元帥の法要です。

会場となる山本記念公園は山本長官のかつての生家跡に整備され、園内には山本長官の生家（復元）と戦後GHQの迫害を逃れるため霞ヶ浦に沈めた胸像を引き揚げ鋳直したブロンズ像が建造されています。生家は内部も視察可能であり、山本長官の勉強部屋であったと云われている二畳間の部屋も忠実に再現されています。また近くには山本五十六記念館もあり、山本長官が最期を遂げられた一式陸上攻撃機の左翼の一部や長官搭乗席もブーゲンビル島から帰國を果たし展示されています。



山本長官は、明治17年（1884年）4月4日長岡藩士高野貞吉の六男として生まれ、中学の頃からベンジャミン・フランクリンを尊敬し猛勉強の末、海軍兵学校（第32期）に進み、明治三十七八年之役（日露戦役）に従軍し日本海海戦において負傷、旧長岡藩家老山本帯刀家を継ぎ山本姓となり、その後航空母艦「赤城」艦長、第一航空戦隊司令官、海軍航空本部長等を歴任する等一貫して航空戦力の充実に尽力しました。

昭和5年（1930年）ロンドン軍縮会議、昭和9年（1934年）ロンドン軍縮会議予備交渉に参加し帝國海軍の命運を賭け粘り強く交渉を続け、昭和11年（1936年）海軍次官に就任すると海軍大臣米内光政海軍大将、軍務局長井上成美海軍少将らとともに日独伊三國軍事同盟に断固反対の姿勢を貫きました。そして昭和14年（1939年）聯合艦隊司令長官に就任しました。かつてハーバード大学留学や米駐在武官を歴任した米國通であり、米國の実力を知っているだけに日米開戦の回避に尽力しましたが激動の時代という荒波の中で願い叶わず、昭和16年（1941年）12月18日大東亞戦争開戦、ハワイ真珠湾攻撃を敢行し我が國始まって以来の未曾有の大戦の指揮を執りました。

昭和18年（1943年）4月7日からガダルカナル島及びニューギニア方面の制空権の獲得のため16日にわたり実施された「い号作戦」も終わり、前線基地で奮闘する将兵を労うため、ニューブリデン島ラバウルからブーゲンビル島ブイン経由でショートランド方面バラレ島に前線視察を企画しましたが、この時放った暗号電文が米軍に暗号解読されてしまいます。そして運命の4月18日、一式陸上攻撃機一番機に乗り込んだ山本長官は零式艦上戦闘機6機に護衛され、ラバウルからブイン基地へ移動中、ブーゲンビル島上空で待ち受けしていた米軍戦闘機P-38ライトニング16機に捕捉され、乗機は被弾しジャングル内に墜落、無念の戦死を遂げられ（海軍甲事件）、その後元帥府に列せられました。



山本長官の平和を愛する御心、そして凶らずも日米戦争に勝つために先手先手で機動部隊を運用し米太平洋艦隊をあと一步の所まで追い詰めた山本長官の勇姿を我々は決して忘れません。

山本長官の座右の銘である「常在戦場」を我が心として、偉大なる山本長官を目標として私も日々精進していきたいと新たに心に誓いました。山本長官、どうかこれからも日本の行く末を見守りください。本当にありがとうございました。

